

巻頭言 福留先生

はじめに 経営倫理学とは何か、その課題について 村山

第一部 ライフヒストリーから学ぶ道德 職業の解説も入れる

銀行時代 佐藤 校正へ

商社マン時代、大学教員 +カルテル問題 古山 修正依頼

私の小学校教育 青木崇さん父 6000字

第二部 倫理学の視点

倫理学の日本的理解—和辻と金子の倫理学 宇佐神

カントの倫理学の基礎とビジネス倫理 新川

英米の哲学・思想 (?) 高田一樹

プラグマティズムの経営倫理学 岩田浩先生に依頼へ

第三部 教育史、福祉学の視点

教育勅語と近代日本 緒賀 現在の課題、経営史の視点も入れて修正へ

教育とケア、働く女性 望月

第四部 江戸時代からの学び

懐徳堂 辻井

石門心学 辻井

陽明学 山本

近江商人と伊藤忠商事 青木崇

老舗研究からの示唆 村山 6000字

水戸の思想—「道德」教育 但野正弘（水戸史学会事務局長）△ 6000

第五部 商業道德、啓蒙的な企業家

高校の「道德」教育—茨城県の事例 大内一幸（元水戸商校長）△ 6000

「山口高商、小樽高商の経営倫理教育 ? 」 井上

「企業家殿堂」の選定を巡って 村山

稲盛和夫の経営哲学 青木崇

第六部 実践編

サービスマーケティング—南部塾におけるトイレ掃除 村山 6000

第七部 未来の経営倫理

21世紀と日本（環境・情報・AI・シェアドエコノミー） 宇佐神

あとがき 村山

執筆要領

- ・2018年3月までに原稿を集める
- ・大学でのビジネス倫理教育のテキスト 20万字（12,000×20本 = 240,000）
- ・新聞レベルで、初学者にも分かりやすく、同時に専門性にも配慮し、本部会のオリジナルの作品を世に問う。
初学者にもわかる一般論的な解説をつけて、課題の提示、起承転結を明らかにする構成に。
- ・引用先を明示する。本文に引用先を書く。（引用・参考文献の書式は以下を参照）
- ・脚注は、解説のみ。文献引用はしない。

文献の表記方法について

引用文献は、参考文献も含めて、論文の末尾にすべて列挙する。

書籍は以下の通りに著者名、『書名』、出版社名、出版年、の順序で。著者名のアイウエオ順に列挙する。

論文の場合は、「論文の題名」、『論文の発行雑誌名』とする。

書籍

石川謙『石門心学史の研究』岩波書店、1938年。

R. N. ベラー著・池田昭訳『徳川時代の宗教』岩波書店、1996年。[Robert N. Bellah, *TOKUGAWA RELIGION: The Cultural Roots of Modern Japan*, Free Press, 1985.]

論文

村山元理「財界人の歴史観—男爵中島久万吉の第一次世界大戦後の世界像」韓国経営史学会『経営史学』第26巻第3号、2011年、257-282頁。

編著の中の論文

島田昌和（2008）「渋沢栄一の労使観の進化プロセス—帰一協会・協調会・修養団」、橘川武郎・島田昌和編『進化の経営史—人と組織のフレキシビリティ』有斐閣、2008年、83-105頁

注について 文末脚注とする。

脚注は、文末脚注として、脚注番号は1, 2, 3・・・として、脚注内では文献引用はしない。

本文の補足、解説が必要な時のみ、脚注を利用する。

引用先は、本文内で明示する。

本文内で、石川（1938）によれば、・・・と書いて、引用先を明示する。

または、本文内で引用箇所の中で、括弧内に、著者名、出版年、ページ数を書く。例（石川、1938年、10-15頁）

同名の書籍の際は、（前掲書、00頁）。